

12月号

1992年
(平成4年)

12月1日(火曜日)

No.107

まいづる毎日

THE MAIZURU MAINICHI

うれしいな!!
ピカピカの作業棟

みずなぎ学園の 新作業棟が竣工

市内鹿原の社会福祉法人みずなぎ学園では、かねてよりの念願であった作業棟の改築を進めてきたが、この程竣工し、12月3日には竣工式が行われた。

さらには、農工班の園生が雨天の日も屋内で作業(堆肥用ワラ整理や収穫物の整理など)が出来るようになったことである。

これまでの作業棟は、昭和16年に木造で建てられた旧海軍通信隊の建物を使用してきたが、昭和52年に陶器作業所を一部増築して木工(額縁製造)と陶芸(陶器づくり)に使用してきたが、建物が老朽したので改築に踏み切ったもの。

新作業棟は、旧作業棟より100㎡広い377㎡で、鉄骨平屋建ての明るくモダンな作業棟として衣替えた。

設計上の改善点は、車椅子の園生が人手を借りずに出入りできるようにと、入り口の扉を自動式にしたのと、電気焼成炉を新しくし

たこと。このたびの新作作業棟の完成が、園生の製作意欲の増進となり、市民の利用の広がり結びついて、障害者福祉の一層の拡充に寄与することを期待し、関係者の更なる活躍を祈念する。

市内鹿原二〇九
番53―五〇三〇

1992年(平成4年)11月27日 金曜日

みずなぎ学園 作業棟が モダンに变身 来月3日竣工式

鹿原の精神薄弱者通所授産収容更生施設「みずなぎ学園」(岡本四寿園長)で進められている作業棟の改築工事が間もなく完成、モダンな建物に生まれ変わる。

同施設では、通所で四十人収容で六十人が作業を通して社会参加のための訓練を続けている。現在、陶芸や農芸、組み立て、粉せっけんなど、六つの作業班があり、敷地内には、こうした作業棟が建ち並んでいるが、陶芸班の建物が一番古く、老朽化が進んでいたため、建て替えることにした。

この建物は、旧海軍通信隊の木造住宅を利用、一部は増築したが、これも同施設の前身、まいづる陶器作業所発足(昭和五十年)当時に造った軽量鉄骨の建物。いづれも老朽化とともに、木造のために部屋の所々に柱があり、作業指導の機能面でも問題があった。

新しい作業棟は、鉄骨平屋建てで、三七七平方メートルの広さがあり、従来の建物(二七一平方メートル)よりも約一〇〇平方メートル広い。中もワン・フロアーとし、屋外のトイレも室内に取り込んでいるほか、巨額コストで、巨額



完成間近の作業棟

レなど多目的に使えるとい
う。この作業棟は「第一作業棟」
として、府や市の補助を受ける
など、総事業費約一億円をか
けて今月末に完成する予定。
十一月三日に、関係者ら約六
十人が出席して竣工式を行う。